

KiKiの広場

2020年 1月 1日

cafe NO.111
KiKi



あけましておめでとうございます！

2020年、令和2年になりました。今年の大きな出来事は、やはり何といっても東京でオリンピックが開催されることでしょう。また、干支は子年、再び十二支のサイクルが新しくスタートする年でもあります。「子」は増えるという意味があり、新しい生命が種子の中で芽生え始める状態を指しているそうです。つまり「すべての始まりと、未来への可能性を秘めている。」だとか。そう考えると2020年、とってもいい年になりそうな予感が……。『KiKiの広場』も「NO.111」と、何だか縁起が良さそうです。今年もスタッフ一同、力を合わせて頑張ります。みなさま、令和2年もどうぞよろしくお願いいたします。

1月の予定

休館日	14日(火)	定休日	毎土・日曜日
臨時休業日	6日(月)・13日(月)		
13時まで営業		27日(月)	

「今月のケーキ」…「りんごのタルト」 350円



カットの大きいりんごをふんだんに使い、シャキシャキ感たっぷりです。タルト生地も香ばしく仕上がっており、甘さをひかえたさわやかなタルトです。



今月のお気に入り…「寒い時期だからこそ、読みたい絵本」

～「ゆきおんな」「ゆきのひのゆうびん屋さん」「しもぼしら」「ふゆめがっしょうだん」「ぼぼぼあちゃんのおもちつき」など～



小泉八雲の怪談で有名な「ゆきおんな」ですが、これはお話が松谷みよ子さん、絵は朝倉摂さんの絵本です。怖さと切なさの情がしみじみ伝わってくるような語りと、透き通るような白さと凍るような寂しげな絵に惹き込まれていきます。「ゆきのひのゆうびん屋さん」は、風邪を引いたうさぎの郵便屋さんの代わりに、3匹のねずみが配達をしてあげるというお話です。雪の中、いろんな動物の登場ありハプニングありますが、でも最後はほっこり。ほのぼのと優しい気持ちになる絵本です。



今月の本欄…「今年の干支 ねずみが出てくる絵本」

～「きつねとねずみ」「ねずみのよめい」「みどりのしっぽのねずみ」「ちいさいねずみ」「ねずみの王女」「ちゅ」などなど～

きつねとねずみ



「きつねとねずみ」の作者は、ロシアの動物学者で有名なピアンキです。訳は内田莉莎子さん、きつねとねずみのかげあい、食うか食われるかの状況ですが、ちょっととぼけていて楽しいです。絵は山田三郎さん。丁寧に描かれた絵は、温かみがあって表情豊かで繰り返し読みたくなる本です。小澤俊雄さん再話の「ねずみのよめい」は、語り口と金井田英津子さんのイラストと版画が見事にマッチしていて、これぞ昔ばなしという感じで、大人も楽しめる絵本です。



ほっとスレイク

最近よくカフェに来てくださるようになった、年配の女性のお客さまのお話です。なんと大正生まれだとか。ということは、90を過ぎていらっしゃるということに。でも見た目はほんとに若くてお元気でおしゃれで、カフェスタッフのNさんの話では、自分のことを「Mちゃん」と言いながら楽しいお話をされるそうです。視力が少し弱っておられるそうですが、ちょうど新しく活け替えたお花を、座っておられるテーブルに置いたところ、「まあすてき。きれいなお花が見れて、今日はいいことがあった。ご褒美もらった。」と言ってくださいました。些細なことにも喜びを感じ、そして感謝の気持ちを持たれて、それを素直に言葉に出して伝えてくださる、その姿勢がいつまでも若くて元気でいられる秘訣なのかなと思いました。今年もご来店を心からお待ちしています。